



サンゴの健康診断(リーフチェック)について

2024年は恩納村マリンレジャー協会協力のもと、2回のリーフチェックを実施しました。6月26日に真栄田岬、11月25日には万座ドリームホールで実施しました。

昨年は、沖縄県全域において夏季に海水温が高い状態が続き、水深が浅いエリアを中心に大規模なサンゴの白化現象が発生し、恩納村のサンゴ礁も白化に見舞われました。水深の深いエリアでは、生きているサンゴも見られ、今後も継続しサンゴの健康状態をチェックしていきます。



リーフチェックとは?

リーフチェックとは、サンゴ礁が健康な状態であるかを知る方法の一つです。世界統一のルール・手法で行われる調査で、データの蓄積を行っていくことと、ダイバーが調査に参加することが目的です。

また、シンプルな手法と役割分担がされており、参加者へのサンゴ礁保全に向けた意識の醸成や、普及啓発も大きな目的の一つとなっています。

チェックポイント：真栄田岬(6月頃)、万座ドリームホール(11月頃)

リーフチェック2024報告(恩納村マリンレジャー協会より)

2024年7月頃から沖縄本島周辺でサンゴ白化の報告が相次ぎ、恩納村でも同様に白化が発生しました。沖縄本島沿岸の海面水温は、6月末から急激に上昇し、7月から9月上旬まで30℃を超える高水温が続きました。過去5年の最高値や平年値と比べても、極めて高いことが公表されております。この状況の中、高水温が続いたことで徐々に白化したサンゴが死滅し秋頃から藻が付着し、黒っぽく見えるサンゴが多い状況でした。

(万座ドリームホールリーフチェック結果より) ダイビングスポットの水深3~10mでの生きているサンゴ被度は26~37%となりました。前年に比べ40~60%減となり、他スポットでも白化による影響は広範囲で確認されました。1998年に大規模な白化現象がありましたが、それに匹敵するとも言われています。

マリンレジャー協会として出来ることは、リーフチェックを継続する事で、サンゴの健康度を記録する事、多くの方に現状を知っていただく事が大事だと考えています。また、自然フィールドをガイドするインストラクターとして自然を保護しながら魅力を伝えていきたいと考えております。

(出所：恩納村マリンレジャー協会ホームページ リーフチェック2024年報告書 <https://oma.or.jp/report/692/>)



(写真：恩納村マリンレジャー協会)

恩納村のリーフチェック(2020~)

本村では「サンゴの村づくりに向けた行動計画(2020改定版)」にて、海域におけるモニタリング調査等への支援が明記されており、その中で恩納村ダイビング協会の取り組みとして「リーフチェックの定期実施」が盛り込まれています。また、恩納村では1990年以降、度々サンゴが白化し減少してきました。そこで恩納村マリンレジャー協会の協力のもと、リーフチェックをともしモニタリングをすることで、年に2回サンゴの健康状態を確認しています。



恩納村マリンレジャー協会リーフチェック2024報告詳細 ▶

<https://oma.or.jp/report/692/>



お問い合わせ：企画課 ☎966-1201



令和6年度
恩納村サンゴ礁モニタリング
調査実施業務 報告書

2025年2月
恩納村